



基本理念

私たちはキリストのように人を愛し 病める人、苦しむ人 もっとも弱い人に奉仕します

基本方針

1. 地域の医療機関や福祉施設と密接な連携を保ち、地域に根ざした信頼される病院運営をめざします。
2. 患者さんの全人的（身体的、精神的、社会的、霊的）ケアを行います。
3. 医療従事者の力を結集した患者さん中心の総合的なチーム医療を行います。
4. 常に自己研鑽に努め、質の高い、安全・安心な医療を提供します。
5. 患者さんの声に誠心誠意耳を傾けます。

Close Up !

糖尿病治療の現在

近年日本の糖尿病患者数は日本人の生活習慣の変化や社会環境の変化に伴い増加しつつあります。平成28年厚生労働省発表の国民健康・栄養調査にて糖尿病が強く疑われる患者数（健康診断にてHbA1c 6.5%以上もしくは糖尿病治療中の数）は1000万人と言われ、その上糖尿病は治療せず放置することにより網膜症や腎障害、神経障害などを引き起こすほか、脳卒中や虚血性心疾患などの心血管疾患の発症、進展に大きくかかわります。

しかし糖尿病は悪くなると口渇、多飲、多尿という症状が出ることもあるものの、ほとんどは発症しても自覚症状がありません。その為糖尿病の発症に全く気付かず合併症が進行してしまうということも起こりえます。

ではどのようなケースで受診されるかですが、やはり当院では健康診断時に糖尿病を疑われ受診されるケースが多く、他には他院受診時にHbA1c高値を指摘され紹介受診されるケースなどがあります。先ほどから出てくるHbA1cという言葉ですが、健康診断などで血糖値とともに測定される項目で過去1～2か月前の血糖の状況を推測できるもので、すなわちこの値が高いと糖尿病が疑われます。これらの結果糖尿病の診断となるケースもありますが診断できない場合は75gブドウ糖負荷試験を行い診断します。検査の結果糖尿病と診断された場合に治療を行っていきます。

糖尿病の治療には食事療法、運動療法、薬物療法とありますが特に食事療法、運動療法は今後の長い糖尿病の治療の中で切っても切れない治療です。当院には

3名の管理栄養士がおり様々な疾患にあった栄養指導を行っています。糖尿病の食事療法は摂取カロリーも大事ですがバランスの良い食事也很重要で、食事療法により著明な血糖改善がみこめます。栄養指導をご希望の場合は主治医の先生にご相談ください。

一方運動療法には短期間のうちに効果が現れる急性効果と継続することにより現れる慢性効果がありどちらも血糖のコントロールを改善します。しかし運動療法には勧められない状態や低血糖を引き起こす恐れもあり主治医に確認が必要です。

食事療法、運動療法が適切に行われるものの血糖コントロールが目標に達しない場合に薬物療法を行います。薬物療法は大きく分けて内服薬による治療と注射剤による治療に分かれます。内服薬は現在様々な種類があり患者さんの病態により使われる薬は様々でイン



糖尿病・代謝内科部長

平嶺 和宏

Kazuhiro Hiramine

スリン分泌状況や体重が多い少ないなどにより使い分けされます。また注射剤も最近ではインスリン以外にGLP-1受容体作動薬と呼ばれる注射剤も使われます。インスリンなどの注射剤は非常に悪い状態の糖尿病患者さんに使われるイメージがありますが最近ではインスリンの進歩に伴い内服薬とインスリンを併用する治療などがあり非常にインスリンは身近な治療となっています。

これらの糖尿病治療に対する知識向上のため当院では患者さんとそのご家族を対象に第2第4火曜に糖尿病教室を開催しております。ご興味おありの方は外来スタッフにお声かけください。

糖尿病は患者さん一人で治療していく病気ではなく、患者さんのご家族をはじめ医師や看護師などの病院スタッフとともに治療していく病気です。何か気になることがあればお気軽にご相談ください。

チーム桜町



栄 養 科

現在栄養科は内科の平嶺部長を栄養科部長とし管理栄養士、栄養士、調理師等で構成されています。

患者さんの栄養に関する業務に携わる栄養科の仕事は大きく2種類あります。

【栄養管理】

○栄養評価…患者さんが入院されると管理栄養士は栄養状態の評価をし、栄養管理計画書を作成します。その後栄養状態に応じて再評価します。栄養評価に於いては各病棟カンファレンスやVF（嚥下造影）検査、褥瘡回診へ参加し、医師、看護師、言語聴覚士などと共にスクリーニングをしています。

○栄養指導…入院、外来の患者さんおよびその家族を対象に必要であれば個別で栄養指導をさせていただきます。また集団では糖尿病教室や講習会なども行っています。

【給食管理】入院中のお食事は治療の一環として提供されるものですが、楽しみの1つでもあると思いますので、手作りをモットーとして患者さんに喜んでいただける食事作りを心がけています。

食事は一般食と治療食に分けられ年齢や病状に応じた食事、また咀嚼嚥下機能に応じて食べやすい食事形態に配慮した食事の提供をしています。食欲不振、アレルギーのある患者さんへは個別対応をしています。また季節感を感じていただけるように月1回の行事食や産科入院患者さんには手作りおやつやお祝い膳の提供をしています。

これからも患者さんのご意見をうかがいつつ、治療の支えとなるよりおいしい食事作りに栄養科一丸となって励んでいきたいと思っています。

（栄養科長 松尾敦子）

栄養バランスを考えた出産のお祝い膳です



料理を選び栄養量を計算、楽しみながら食事療法を学べます

「さくらまち糖友会」（以下、糖友会）は、糖尿病患者さんが、自身の治療や合併症の予防に関する知識の向上を図ったり、患者さん同士がお互いに相談したり、親睦を深めたりして、食事・運動療法などの治療効果を高めることを目的としています。糖友会では講習会や体力測定会、食事療法勉強会などを定期的に行なっています。医師や医療スタッフも参加していますので、分からないこと、お悩みなども気軽に相談できます。また、日本糖尿病協会発行の月刊誌「さかえ」が購読できます。糖尿病に関する情報が分かりやすく掲載されていて、講習会に参加するのが難しい方でも、「さかえ」を読むことで、知識の向上を図ることができると思います。糖友会に興味のある方は、内科外来受付にお尋ねください。過去に行われた講習会の様子が、桜町病院のホームページに載っていますので、そちらもご覧ください。

（糖友会の入会には3,500円が必要になります。）



栗に似ていることから「いが蒸し」や、蒸しあがると真珠のようだというので「真珠蒸し」などとも呼ばれています。

難しそうに思われるかもしれませんが、玉ねぎは炒めませんし、シュウマイのように皮に包む必要がないため、意外と簡単です。

ぜひ試してみてください。

材料 4人分（1人分230Kcal）

もち米60g 豚ひき肉180g 玉ねぎ1/2個
☆卵1/2個 ☆片栗粉20g ☆塩2g ☆酒少々
ねりからし

作り方

- ①もち米は一晩水につけるかぬるま湯に1時間つけ、ざるにあげて水を切る。
- ②玉ねぎはみじん切りにする。
- ③ボールに豚ひき肉、②、☆印の材料を入れてよくこねる。
- ④③を団子に丸める。1人分4個くらい、計16個程度。



One Point 蒸し器にレタスやキャベツをしいて、その上に団子を乗せて一緒に蒸すと野菜も一緒に調理ができます！

- ⑤④の表面に①をつける。
- ⑥蒸し器に並べて20分くらい蒸す。
- ⑦お皿に盛り付けてからし醤油でいただく。



医療のコトバQ&A

第2回「インフルエンザワクチン」



〈回答者〉薬剤部長 池淵 剛

Q. ワクチンの接種はいつ頃、何回受けるのがよいのでしょうか？

A. インフルエンザワクチンの効果発現と持続期間には個人差があります。一般的にはワクチン接種後2週間目ころから効果が発現し5か月間程度持続するとされています。但し、13歳未満のお子さんは、免疫機能が未熟なためワクチンの効果が付きにくいので接種を2回行う必要があり、この場合は2回目接種後2週間目ころからとお考えください。接種時期としては、インフルエンザ流行期が多少前後することがあることを加味して10月後半から11月中旬くらいまでに接種されるのが良いかと思われます。

Q. ワクチンの効果について教えてください。

A. 厚労省のインフルエンザQ&Aには、感染について「ワクチンはこれを完全に抑える働きはありません」、しかし発病について「抑える効果が一定程度認められています」、また、「特に基礎疾患のある方や高齢の方では重症化する可能性が高いと考えられています。ワクチンの最も大きな効果は、この重症化を予防することです」と書かれています。ワクチンは発病を100%なくすることはできませんが、発病率を下げ、重症化を予防する有効性は証明されています。自分の為だけでなく、感染を拡大させないという観点から、接種をお願いします。

■院内研修会「認知症サポーター養成講座」

認知症サポーターとは、認知症の基本的な知識を理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者のことです。桜町病院では全職員がサポーターとなることを目指し、7月24日（火）に養成講座を開催しました。認知症疾患医療センターの医師や様々な職種の職員47名が参加し、認知症の人を支援する目印となる“オレンジリング”を受け取りました。今後も引き続き講座を開催していく予定です。



■第54回日本カトリック医療施設協会全国大会

8月3日（金）～4日（土）、日本カトリック医療施設協会第54回全国大会が新宿の聖母病院の主幹により竹橋で開催されました。午前中の基調講演は特養芦花ホームの石飛先生の講演で、先生は平穏死のすすめとして「必要な医療はあるが、最後は自然に平穏に終わることも重要ではないか」と話されました。午後の事例・研究発表は各施設の日常の熱心な活動や取り組み19事例の発表が行われました。功労賞受賞式では当院から2名の職員が表彰されました。次年度は長崎で開催が予定されています。

■感染制御（ICT）チーム活動中！

ICT（infection control team）：感染制御チームとして、メンバー数名で週1回の院内ラウンドを行っています。感染制御活動が守られているのか、チェックシートに沿って確認し、結果をフィードバックしています。結果の中には、すぐに解決できるものから病院全体で検討しなければならない問題など様々で、毎回色々な発見があります。「ラウンドだ！」と煙たがられているかもしれませんが、スタッフが我々の姿を見て「ハッとする」＝「気をつけよう、やらくちゃ」と行動変容につながっていくことも期待のひとつです。



ご存知ですか？



お薬服用時のお水は…etc

来院患者さんやご家族のお役に立つ桜町病院の施設情報をいくつかお知らせいたします。

院内でお薬服用時にお水が必要な場合は、2階外来待合に設置されたカップ式自動販売機に無料のお水がありますのでご利用ください。

1階正面玄関入って左奥にはストレッチャーで入室できるオストメイト対応のトイレがあります。

1階売店横には授乳室があり、赤ちゃんのおむつ交換や授乳時にご利用いただけます。

編集後記 豪雨、台風、地震など、今年も全国各地で大災害に見舞われ、甚大な被害が生じております。被災された皆さんに心からお見舞い申し上げます。また、今年の夏には過去最高気温を更新し、40℃を超える日がありました。経験したことのないような40℃前後の暑さを気象庁は「命に危険があるような暑さ、1つの災害と認識している」と伝えています。自然と共存していけるよう一人ひとりが自然環境の維持に気をつけたいものです。（周）